

第1回 能美市タウンミーティング

平成29年5月26日（金）19:30～20:55

福岡町公民館

【根上地区町内会会長】

タウンミーティング“井出市長と語ろう「10年後の未来」”にお集まりいただき、ありがとうございます。

さて、能美市が合併して今年13年目になります。人口を見ますと、合併したときには4万7,207名でした。現在、5万人を少し切っています。増加の大きな要因は、子育ての充実、医療、それから福祉、教育にあると思います。

それともう一つは、働く場所が能美市にはたくさんあります。個人の会社や商店、それから日本を代表する企業が幾つもあります。また住宅や自然環境、山あり、海あり、平野あり、川あり、こういう自然環境が人口増加の要因ではないかと思っています。当然、これは市民と行政が一つになって取り組んだ結果ではないかと思っています。

また、10年後の未来を思いますと、やはり少子・高齢化が一番心配になります。そのような中で、能美市に住みたい、そして能美市に住んでよかったという、そういうまちを市民と行政が一体に進めることが大事ではないかと思っています。

10年後の明るい未来をつくるために、私ども町内会としても、行政と一緒に進めていかなければならないと思っています。

今日、その未来に向けて井出市長がお越しになり、こういう会話をする機会を与えてくださったことに感謝を申し上げまして、私の開会のご挨拶といたします。よろしく願いいたします。

【司会】

次に、井出市長からご挨拶を申し上げます。

【井出市長】

日中のお疲れのところ、こんなに大勢の皆様にお集まりをいただきましたことに、まずは御礼を申し上げます。

そして、今ほども根上地区町内会会長様から大変過分なお言葉をいただきまして、改めまして御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

選挙公約でありましたタウンミーティング、第1回目をこの福岡小校下で開催させてい

ただくことを、大変光栄に存じます。まさにこの一步をここから記せるということに喜びを感じております。

私の政治信条であります「現地現場主義」、そして「市民ファースト」、これを進めていく礎となるのがまさにタウンミーティングでの皆様方からのご意見やご提案だと思っています。

能美市最大の課題は人口減少問題です。昨年10月に人口5万人を超えましたが、今は4万9,900人台です。そして、25年後にはさらに減少し、4万7,000人台になってしまい、高齢化も進んでいくという状況です。これを何とかしていかなくてはならないという思いの中で、10年後に向けて能美市の魅力を発掘、発信をしていくということで、いろんな取り組みを始めているところです。

この魅力を発掘、発信をしていく目的というのは、まさに移住・定住の促進です。人口減少問題に歯止めをかけ、そして企業誘致を進めていくのですが、昨今はなかなか思うように人材を確保できないという、そんな声も企業から聞いております。人口をどう増やしていくか、産業人口をどう確保していくかということです。

そして、2つ目にあるのは、企業誘致を進める、地場産業の振興を促していくということです。これは、雇用の場の確保をしていくということです。幾ら人口が増えても、地域で働く場所がなければなかなかこの地域に来ていただけないということがあります。それから市政を運営していく上で財源が必要です。そういった意味でも、企業誘致、そして地場産業を振興していく必要があります。

そして、3つ目がふるさと愛の醸成です。この移住・定住の1つに、UIターンの促進ということがあります。福岡小学校、根上中学校、県内の高校を卒業して、例えば首都圏の大学へ行った。首都圏の大学で学んで、そのまま首都圏の会社に就職をしようかなと思っている福岡の子供たちに、やっぱり根上に戻ってきて、両親や友達と一緒に住んで、そしてこの場で働きたいと思ってもらえるように、小さいうちから能美市の魅力というものを発信していきたいと思っています。

能美市というのは、住みよさランキングなどでは全国上位ですが、認知度あるいは魅力度は全国で600番台、400番台ということで、知名度は低いのです。

この能美市というのは、我々は「のみし」と読めますが、県外に行くと「のうみし」と呼ばれたりして、自治体の名前すらなかなか認知度がないということです。それを何とかしたいということで、5枚のポスターと7本のビデオをつくりました。これは能美市の観

光特使を務める大成町ご出身の藤田誠さんが手掛けました。アサヒビールなどのコマーシャルを制作している大変有名なアートディレクターです。そして、写真を撮っていただいたのは、石川県能登町ご出身の梅佳代さんで、人物像を撮らせたなら日本では何本の指かに入る有名な方です。

能美市の魅力って何だろうということで、そのお二方が考えたのは、子供たちの笑顔だとおっしゃっていただきました。まさに能美市は子育てがしやすい環境だということを象徴するのが子供たちの笑顔であり、そして能美市の特徴は子供たちの笑顔だろうということで、このようなポスターとビデオをつくっていただきました。

今、このポスターは東京駅、京都駅、大阪駅、金沢駅や小松空港、そして市内のあちらこちらにも張りまし、今後も全国各地にこのポスターを張って能美市を積極的にPRしていきたいと思っています。

そこで、皆さんにとって能美市の魅力って何でしょうか。皆さんのお考えになる能美市の魅力って何だろうかなということ、今日少しお話をさせていただければなと思っています。

私がイメージした能美市の魅力というと、例えば子育て環境、福祉、医療、自然景観が素晴らしい、自然災害が少ない。それから、能美市は84平方キロメートルしかなくコンパクトです。そして、町会や町内会の組織がしっかりしていることです。市内には74の町会・町内会の組織があり、町内会長さんが本当にいろんな役割をさせていただいている。これは、能美市にとっても本当に大きな魅力の一つだろうと思っています。

それから、文化や各種団体の活動がすごく盛んであることです。公民館やタントを予約しようと思ってもなかなか予約できない。それだけ地域のコミュニティがしっかりしているわけです。それから、まちづくりへの関心が高いということも魅力だと思っています。

ものづくりのまちということで、能美市の工業製品出荷額は、県内第4位、そして人口当たりでは県内の市で第1位です。それだけ雇用の場があり、我々の市政の財源確保に寄与していただいているということです。

それから、交通アクセスについては空港、駅、国道8号があります。また、来年の3月には吉原釜屋にインターチェンジができます。それからタントの前の道、今、福島町のところで丁字路になっていますが、数年後にはあの先に橋ができます。そうすると、コマツの粟津工場から金沢港まで直結する道になります。

それから特産品でいえば加賀丸いも、ユズ、九谷焼、お酒、おいしいお菓子がたくさん

あります。それから観光資源でいえば動物園、温泉、松井ミュージアムがあります。

それから、北陸先端科学技術大学院大学があります。大学があるまちというのは県内でも少ないです。また、寺井高校があります。高校生がまちの中を歩いていること、そして能美・根上域に通う子供たちが通学路を歩いていることでにぎわいの創出になります。

それから、住みよさランキング等いろんなランキングが上位であるということです。ほかに皆さんにとって能美市の魅力というのはたくさんあるのだらうと思います。

いいことばかりではありません。課題もあります。実は、財政状況はそんなに明るくないのです。アセットマネジメントといって老朽化した設備をどんどん直していかななくてはならないということがあります。

例えば、能美市の中には上水道管が約430キロあります。これを全部新しいものに取りかえるのに約100年かかると言われています。これには財源の問題がありますし、(道路の)あちらこちらで穴ばかり空いていると交通に支障があるので、時間をかけて直そうということです。今直したものが100年後にまた直す必要がでてきたり、橋も老朽化しているので直す必要があったりというような課題があります。

それから、皆さんからよく「のみバス」が不便と言われます。家の近くに停まってほしい、時間を短縮してほしいというような声をたくさん聞きます。

それから、広域連携の強化ということで、人口が減っていきますと能美市単独ではできない行財政サービスがたくさん出てきます。そうしますと、近隣の白山市や小松市、川北町といろんな連携を組んで、市民サービスを維持安定させ、そしてさらに向上させていく、そんなこともやっていかなくてはならないということです。

シティプロモーションといいまして、私自身が県内外に能美市の魅力を発信していく。そして、市役所にはちょっと空いたスペースがあります。そこに能美市の特産品や工業製品の展示、あるいは生け花展や書道展などをして能美市の魅力を発信し、多くの皆さんに市役所に来て、いろんなものを見ていただくようなことをしていきたいと思っています。

以上、いろいろなお話をしましたけれども、きょう皆様方からいろんなご意見、ご提案をいただいて、それを市政に反映していきたいと思っておりますので、限られた時間ではございますけれども、よろしくお願ひします。

【司会】

進め方ではありますが、私からテーマを申し上げます。それについてご発言していただき、井出市長から返答や意見を述べたいと思います。なお、時間がありましたら、最後にフリーでご提案、ご意見をご発言いただく時間もとりたいと思っています。

① 子育て支援、高齢者福祉、② 公共交通

【司会】 では、最初のテーマは、子育て支援、高齢者福祉についてです。

【西任田町民】

10年後の未来というと少子・高齢化がますます問題になってくると思われます。10年後の能美市の人口予測について総人数や世代別男女比など、どのように能美市では予測しているかをお聞かせください。

また私には、高校1年の息子と小学生6年生の娘がいますが、ほかの市や県外の友人のお話と比べると、能美市の子育て支援はとても充実していると思います。しかし、このままでは子供はふえてはいかないと思います。能美市として子供をふやす対策や、高齢者が増えることで介護サービスの施設の拡充をどうしていくのか、能美市の方針をお聞かせください。

【井出市長】

まず、5月1日現在の人口は4万9,954人です。10年後ということですがけれども、2015年を基本として2025年には総人口が4万8,872人になります。男性が2万4,237人、女性が2万4,635人ということで、そんなに大きくは減らないだろうという予測です。

ただ、その後に大幅に減っていくということで、そのあたりをどうしていくかということが最大の課題だと思います。

合計特殊出生率という数字があります。平成27年の能美市の数値は1.73です。これが2以上じゃないと人口が減っていくということで、お子さんを産んでいただくためにどうしていくかということが、少子化の対策になろうかと思っています。

この少子化の原因の1つに未婚化、晩婚化があると言われています。未婚化、晩婚化をどう解消しましょうということがあります。

能美市として婚活をやりたいなと、要するに、出会いの場を提供したいなということも今、考えています。

それから、2人目だけではなくて、3人目を産んでもいいかなと思ってもらえるように、

例えば保育料を軽減するとか、あとは、県がやっていることですが、プレミアム・パスポートといって、複数のお子さんを育てている世帯がいろんなお店で割引などの特典を受けられるものです。これらを宣伝しながら、未婚化、晩婚化を解消し、そして希望どおり子供を産んでもらうことを奨励していきたいという思いです。

そして最後に、介護のお話がありました。実は、能美市の介護施設等は全国と比べてかなり充実しています。その一方で、やはり高齢者の方々には地域に根ざした形で暮らしていただけるほうが、私はいいのではないかなと思っています。施設に入っただけよりも、長年暮らした地域で、そしてご家族と一緒に暮らす。一緒に暮らさなくてもご家族の近くで暮らすような、そんなまちが私はいいのではないかなと思っています。今取り組んでいるのは地域包括ケアシステムの構築です。まさに自助、互助、共助、公助、これをどうやっていくかということであり、能美市の中では、例えば「春まちぼかぼかプロジェクト」は、皆さんもご参加されたかと思いますが、市民と有識者が一体となってどうやっていけばいいのか（考える）というような仕組みがあったり、それから町会長さんにも見守り隊であったり、それから地域のボランティア活動であったり、いろいろ参加していただいています。そんなことを後押ししながら、高齢者の皆様にも安心・安全にこの場所で暮らしてもらうことが、いつまでも健康で長生きをしていただける、そこにつながるのではないかなと思っています。

【司会】

それでは、新たなご提案、ご意見がある方はいらっしゃいますか。

【赤井町民】

企業誘致が進んで、工業団地もほぼ埋まってきたという現状だと思いますが、その企業に若者が働きに来る、Uターン、Iターンで能美市に若者が多く定住してくれればと思います。そして、定住してくれた若者が能美市で家庭を持つというのは少子化の解消にもつながるので、そのために行政は今までいろんな対策をとってきたと思いますが、今まで以上に住む家、子育て、それから教育について、経済的な負担の軽減策があればいいなと思います。その辺について、お聞かせください。

【井出市長】

まず、県外で学んでいたり、働いていたりする能美市出身の人たちに戻ってきてもらえるようにどうするかということです。

そこは、ふるさと愛の醸成をし、この土地に戻ってきたいなと思ってもらえるように、小中学生のうちから、この土地の魅力を伝えていくことをどんどん推進していきたいと思っています。例えば、高校生まで医療費が無料、電気代が日本一安い、あとは保育園がすごくいい、生活しやすいところだという、今までの道徳の時間に教えなかったようなこと。あとは能美市には世界に通用する会社があり、皆さんが大学を卒業してその勉強を生かせる会社があるのだというようなこと。このようなことを早いうちから伝えていって、それに戻ってきたいなと思ってもらえるようにしたいと思っています。

それから大学へ行った方に、戻ってきてもらえる、戻ってきたくるように、能美市の情報をもっと積極的に伝えていく必要があるのではないかと思います。今後は事前に登録をしてもらって、ダイレクトメールで能美市はこんなことを行っているということなどいろんな魅力を発信していきたいと思っています。

それから、県の制度でILACといってふるさとに戻ってきたいと思っている人たちにどんな働き口があるかというところを紹介する場所があります。それからふるさと回帰センターというところもあるのですが、そのようなところとしっかり連携して、能美市のことをPRしてもらえるようにしたいなと思っています。

それから、若い人たちにもっと経済的に少し優遇ができないかというようなことですが、例えば家を建てるという場合には、今までは能美市に移住してきた人にしか、助成をしていなかったのですが、これからは年齢が45歳未満の人を対象に、市内で家を建てれば今まで能美市に住んでいた人にもある程度助成金が出るような、そんな仕組みにしていきたいと思っています。

いずれにしても、戻ってきたときにやはり生活がしやすいのだというようなことを積極的に訴え、そして皆さんのご意見を聞きながら、さらに充実した施策を施していきたいという思いです。

【司会】

それでは、今とは違う件で子育て支援、高齢者福祉について、ご意見がある方はいらっしゃいますか。

【赤井町民】

能美市は今まで以上に高齢化が進んでいくと思います。高齢者の免許証の自主返納も進んで、交通弱者の生活の足の確保がますます重要となってくると思います。現在のコミュ

ニティバス（「のみバス」）の運行状況、利用状況は乗車率重視のように思います。各町内の意見等はどのように取り入れているのか、教えていただきたいです。

現在、利用している人の中には、帰りのバスの時間がなくてタクシーで帰ってくる人もいます。現行のバスより小さい10人前後が乗れるワンボックスカーを今後導入して本数をふやす、タクシー割引券を配付するなど、対策をお願いしたいと思います。

【井出市長】

「のみバス」の件、本当に大勢の皆さんから何とかして欲しいというお声をたくさん聞きます。冒頭申し上げたように、本数が少ない、目的地に行くまで大変時間がかかるというお声を聞いています。

「のみバス」のダイヤやルートは今まで何回も変更をしてきました。実はただ変更してきたわけではなく、大勢の皆さんにアンケートで調査したり、それから実際に市役所の職員がバスに乗って、状況を確認したり、乗っている人たちに実際に聞いたりして、それで今のバスのルートになっています。

そんな中で、まだそういったお声があるということに関して、今後、どうやっていこうかというのは実は私自身も悩んでいるところです。

バスのサイズを小さくして、それでもっと必要なときに必要なところに来てもらえるような、いわゆるオンデマンドタクシーとかということも考えていかななくてはならないと思っています。

タクシーということになりますと、どういう方に利用券をお配りすればいいのか、何枚お配りすればいいのかということ、これはかなり財源がかさむことになりますので、慎重に考えていかななくてはならないなと思っています。

実は、今もこの（のみバス）のダイヤ、ルートをどうやっていこうかということを考えているところでございまして、今回、タウンミーティングをしていく中で、大変重要なテーマの一つだと思っています。市内各地を回らせていただいて、皆さんのいろんなお声を聞いて、最終的に判断をして、多くの皆さんが利便性のよさを感じ利用していただけるような、そんな公共交通を確立していきたいと思っています。

③ 健康づくり、生きがいくくり

【司会】

その次のテーマ、健康づくり、生きがいくくりについてご提案・ご意見のある方はいらっしゃいますか。

【五間堂町民】

五間堂の現状というのは、人口が302名、世帯が102世帯です。うち、アパートは28世帯ありまして、50人入居しております。高齢者というのは80人いらっしゃるの、五間堂の高齢化率は26.5%ということです。（アパートを除いた）集落の高齢化というのは31.7%ということで、他の集落とほとんど変わらない高齢化率です。

特に私も今68歳で10年後78歳ということなので、今後10年間の健康をどうするかということ、

今の町内会では健康づくり推進員とか、地域福祉委員会があつて、いろいろやっていますが、この健康寿命を延ばすというのは、特に継続性がないとなかなか効果も出にくいし、今は特に皆さんが忙しい。いろいろな施策をされている市の中で、10年後を目指して健康寿命を延ばす、そのプログラムというのはどんな方向性を見ているのかということを教えてほしい。

それから、先ほど市長もおっしゃったように、各町内会、いろんな事業を結構先進的にやっておいでるところがあるので、町内会で継続的に健康づくりをやって、ここは成功しているというようなのがあればまた教えていただければと思います。

【井出市長】

健康って大切だなと今、しみじみ思っております。皆さんもご存じだと思いますが、能美市では平成25年に能美市健康増進計画「健康のみ21」というのをつくりまして、各町に健康づくり推進員という方がいらっしゃいます。この方にいろんな取り組みをしていただいております。ここにその健康の視点と施策の方向性ということが書いてあります。例えば市民一人一人の健康づくりの実践ということで、「自分の健康は自分でつくるという主体的な健康づくりが基本であります」と書いてあります。

ここに、例えば施策の方向性として、正しい食生活の実践、適切な身体活動・運動の実践、休養とこころの健康づくり、適正飲酒の普及、たばこ対策の実践と書いてあります。私自身、これを読みまして、5つのうち、たばこは吸っていませんが、これ以外は全くやれてないなということを反省しています。

まさに健康を推進するというのは、大きく2つ基本的な考え方がございまして、健康づくりと健康診断を受けるということだと思います。

健康づくりということになりますと、例えば最近は歩くということが見直しをされており、能美市の中でもウォーキングのイベントを今から定期的にやっという計画があります。

先日も寺井小学校前をスタートして、辰口の博物館まで往復10キロを歩くイベントがありました。たしか五間堂の皆さんも当日一緒に歩いていただいていたと思います。まさにその歩くというイベントを多くやったり、歩くための基本的な心得や、歩き方をアドバイスする講習会もやったりしていきたいなと思っています。

それから、子供から高齢者まで誰もが楽しめる生涯スポーツということで、キンボールや、カローリングといったそんな競技があり、市ではそれをやるための道具を持っていますので、お貸しして各町内で楽しんでいただけるというようなこともやろうとしています。

それから、能美市には、たくさん有名なアスリートがいて、彼らと一緒にやるとようなスポーツイベントなどもできないかなということを考えている最中です。

先進的にやっているまちにつきましては、また改めて調べてご報告をしたいと思います。

④ 移住・定住・U I ターンの推進

【司会】

次は、移住・定住・U I ターンの推進についてご提案、ご意見のある方いらっしゃいますか。

【西二口町民】

能美市の奨学金制度をもう少し学校から生徒に伝わるように広めていただきたいと思います。これについては、広報、ホームページで知りました。

次に、企業誘致に力を入れている能美市ですが、県外に出ている子たちがより戻りやすくするため、地元で働くため、能美市の企業情報を十分に提供していただきたいと思います。

【井出市長】

もっともだなと思います。市のほうでは、今ほどお話があったように、ホームページや広報のみで、毎年3月にその情報を出していますが、やっぱりそれでは不十分だということ指摘だと思います。

今後は、例えば高校や中学校で卒業間近な子たちに、能美市がこんな制度を設けているということを伝える仕組みを考えていかななくてはならないと思います。それから対象になる月の3月とか4月にホームページでも見出しが出て目立つように、そんな改善を施していきたいなと思っています。

それから、Uターンを考えているお子さんたちにどんな情報を提供していくかということですが、冒頭申し上げたように、就職時期になったときに能美市にはこんな企業がある、就職口があるということをダイレクトメール、もしくはEメール等々で直接お伝えできるような仕組みを考えていきたいと思っています。

それから、能美市、小松市、加賀市で連携して、3月、8月に合同就職説明会をやっていきます。そのようなことを通して能美市の就職口をPRしていきたいという思いがあります。あと地元の寺井高校や先端大にも積極的に能美市にはこういったところがあるよという情報発信を強化していきたいと思っています。

それから、冒頭申し上げたILACという組織やふるさと回帰センターにも今まで以上に能美市の情報を流していきたいと思っています。

【司会】

移住・定住・U I ターンの推進について、今の件とは違うご提案、ご意見ある方いらっしゃいますか。

【福岡町民】

私は転勤でこちらの地域に来て、ここにいます。そのとき根上町って何をやっているのか、どういうところ、どういう歴史があるのか、何もわかりませんでした。

そのときにたまたま創成塾というのがあり、いろんなことを教えてもらえるなど思い、応募し1年間入らせていただきました。

能美市として、転勤してきた人に対して、または移住した人に対して、歴史も含めて教える、または一緒に学んでいくような（場をつくる）何かそういうのはどうでしょうか。

【井出市長】

私もずっとこの能美市、寺井町に育った人間なので、この地域のことは知っているつもりですが、やはり一歩離れると全く習慣が違ったり、それから歴史をそれほど知らなかったり、それから地域のいろんな隠れた場所や、お祭りの昔からの歴史について知らなかったりすることがたくさんあるので、まさにふるさと再発見みたいな、今のご提案を検討し

てみたいと思います。

余談ですが、ふるさと回帰センターといいまして、都会に住んでいる人が地域に戻りたいと、どこに住むのが一番いいのかと思ったときに参考となる情報がある場所があります。そこで人気のパンフレットについて教えてもらいました。例えばお香典は幾ら包むのか、正月はどういうふうにご過ごすのか、祭りに参加したいが、どうやったら参加できますかというようなことが書いてあるパンフレットが一番人気とのことでした。

「なるほど」と思いました。今、能美市でもいろんなパンフレットをつくっていますが、移住・定住を進めるに当たって、生活に密着した、そんなパンフレットをつくるのもいいのではないかなと思っているので、担当部署に伝えていきたいと思っています。

それから毎月発行している広報能美に、今月号から市内の74町会・町内会を紹介するコーナーをつくりました。74あるので、1カ月に3つしか載せられないので2年かかりますが、地域の町内会長さんにそこに出ていただいて町を紹介してもらいたいと思っています。皆さんに読んでもらって（町のことを）知っていただける機会になればなと思っています。

⑤ 地域の特色を生かしたまちづくり、観光・市のブランド化

【司会】

次のテーマは、地域の特色を生かしたまちづくり（観光・市のブランド化）について、ご提案、ご意見のある方いらっしゃいますか。

【西二口町民】

道の駅というものに対して能美市はどのような考えを持っているのか、少し意見を聞かせていただきたい。

【井出市長】

私も道の駅が欲しいなと思っています。実は能美市に道の駅がないわけではなくて、鶴来にある道の駅は住所が能美市です。ただ、地理的なこともあって、白山市が運営している、そんな状況です。

県内にはいろいろな道の駅がありますが、白山がきれいに見える道の駅はないのです。こんな道の駅ができればなと、まだ思っている段階ですが、そんな思いは正直言ってあります。

能美市には、たくさん特産品があります。加賀丸いも、ユズ、九谷焼、お米、それから地域でたくさんいろいろなおいしい野菜がとれます。

粟生町にJ Aグリーンという、直接農家さんが持ち寄って販売している、そういう場所がありますが、大変好調だという話を聞いています。J A根上のお店も好調だと聞いています。

まさに、地域の人がつくったものを直接持ち込んで、そして地産地消していく。そこに能美市に観光に来た人も寄ってもらう。そんな道の駅があったらなと思いますし、加えて地域のものを使ったおいしいものを食べられる、そんな場所があったらいいなと思います。まだ具体的にその場所はどこが一番適当なのか、どういった形で運営をしていけばいいのかというような構想は持っていませんが、今後、道の駅ができるように検討を進めていきたいと思っています。

⑥ 消防・防災体制の強化

【司会】

次のテーマは、消防・防災体制の強化でございます。

この件について、ご提案、ご意見のある方いらっしゃいませんか。

【西任田町民】

1 番目に、指定避難場所及び福祉避難場所の充実ということで、昨年4月に発生した熊本地震は震度7が2度あり、直接死が50人で、関連死が149人です。関連死の9割が60歳以上の方が犠牲になり、避難者は最大で18万人余りになりました。

福岡小学校校下の指定避難場所は、福岡小学校と赤井地区働く婦人の家の2カ所です。また、福祉避難所は福岡校下にはなく、特に60歳以上の関連死を少なくするためにも、将来に向けた避難所の充実についてお聞きいたします。

2 番目に、小学校下ごとに自主防災組織の設立、大規模災害において、自助・共助及び公助があつて初めて災害対策がうまく働いたと認識しました。昨年9月に福岡小学校5町合同防災訓練を実施しました。地域コミュニティの防災活動の重要性を考えると継続することが大事だと思いますが、会長と事務局に携わった町内会長が毎年かわるので、今後の計画は立っていません。地区防災計画を進めることから、小学校下自主防災組織の設立についてお聞きいたします。

3 番目に、火災の延焼を防ぐため、住宅密集地における空き地について、昨年12月に発生した糸魚川大規模火災は、消防活動が十分に行えない商店街や木造住宅の密集地であり、加えて強風により鎮火まで約30時間続き、140棟に延焼がありました。大規模火災を想定し

た住宅密集地における空き地をつくることについてお聞きいたします。

【井出市長】

私も東日本大震災の災害現場、それから熊本の地震の現場、糸魚川の現場を見てきました。どこも共通しているのは、うちの市町でそんなことが起きるとは思わなかったということをおっしゃる方が多かったことです。本当に皆さん大変な思いをされているのだろうなということを知り、見てまいりました。

そんな中で、避難所の件なのですけれども、今市内には指定避難所というのが35カ所、それから福祉避難所というのが9カ所ございます。これは耐震性が確保されているとか、あと洪水や土砂災害があった場合にも、危険がない場所等々とか、いろんな条件がある中で選んでおりまして、今のところ、その条件に見合ったものを最大限指定しています。

ただ、今後どうやっていくかということになりますと、まずはその避難所に安全、安心に、迅速に避難をしていただけるように日ごろの防災訓練や、あとハザードマップを充実させていくことだろうと思っています。そのあたりをしっかりとっていくということで、仮に大きな自然災害があっても大きな被害が出ないようにしていきたいと思っています。

それから、自主防災組織の件なのですけれども、市内に74町会・町内会がございまして、現在68の町会・町内会のほうで既に自主防災体制・組織ができ上がっております。（体制・組織ができていないのは）能美市の中では数カ所ということになっています。全町内会・町会につくっていただけるようにいろいろご相談をしながら連携を強めているところでもございます。

この小学校校下ということのご提案だったと思いますが、例えば福岡小学校校下でそういう体制をつくっていくということが万が一、災害起こった場合、お互いに公助・共助しなければならぬ場合は、必要だと思いますので、町内ごとの防災組織が何らかの形で連絡がとれるような、そんな仕組みは今後考えていきたいと思っています。

それから空き地の件なのですけれども、これはなかなか難しいのかなと思います。例えば、土地にはそれぞれ地主さんがいらっしゃるんで、そこが空き地になる条件ということになると、いろいろな問題を抱えています。仮にそこに家がなくなったときに、そこが自主防災組織の拠点になるように、例えば災害、火災が延焼しないように仮に市が確保しておくかということが出来るかという、なかなか難しいのではないかなと思いますので、その点はぜひご理解いただきたいと思っています。

【司会】

今の件について、ご意見、ご提案ございませんでしょうか。

【中ノ江町民】

防災センターができ、そこに消防車が6、7台あります。また、根上の分署にも1台ありますが、中ノ江が火事になったら、どの道を通ってくるのか（疑問に思っています。）

5月3日に近くの会社で火事がありました。私はちょうど田植えをしていたのですが、消防車、レスキューが見え、別々の道を通って迷っているように見えた。もしもの際に、真っ直ぐ来てくれるのかなと（不安に思いました）。

もう一つ、過去に起きた火事で思ったのは、一番近くの防火水槽を誰も使いませんでした。消防のマニュアルはどうなっているか知りませんが、何でここ使わないのだろうと、単純にそう思いました。

今後の課題としてご検討ください。

【井出市長】

すみません。ルート等の資料を持ち合わせてないので、改めて消火栓のことも含めて、後日、ご回答申し上げますのでご理解ください。

⑦ 農業の振興

【司会】

次は、農業の振興について、ご提案、ご意見のある方いらっしゃいますか。

【五間堂町民】

どこの地域も農業者の方が高齢化（している）ということで、ご隠居なされた後の後継者不足というのがどこも深刻ではないかと思えます。後継者がいなくなってしまった小さい農家とか、その方たちの田んぼとかの利用、維持についてどのように考えていかなければいけないのか、そういうことを少しお聞きしたいです。

【井出市長】

本当に農業の状況というのは厳しいということ、私も把握しています。特に米離れは大変深刻な問題でございますし、人口減少で米の需要量というのは年々減っているという状況だろうと思えます。

その中で、水稻をつくらなくなった、そういう水田をどうやっていくかというご質問だと思います。まずは大規模でつくっている方にその場所もつくっていただくようお願い

をしていくことが一つだろうと思います。

国全体でも、大規模化でコストダウン、省力化、品質の安定向上を図ろうとしていますので、やはり専業でやっていらっしゃる方、そのような営業で農業をやっていらっしゃる方をお願いをしていくということが一つなのだろうなと思います。

それからもう一つは、転作を国も進めています。市としても後押しをしていければという考えもございます。

具体的には、今、能美市の中では大麦、はとむぎ、大豆等々の転作を奨励しています。加えて、新しい能美市の核となるような、そんな野菜もつくっていけないかなという思いもあります。ご当地には加賀丸いもがあります。例えばその加賀丸いもを作っただけよう農家さんにもっと頑張ってもらっていただけるような支援や、あとは作ったものをさらに売っていただけるような拡販支援をしてきたいと思っています。

加賀丸いも以外の新たな作物もつくっていただけるような、そんな助成制度もとっていきたいと思っています。

【司会】

今の件について、ご意見、ご提案ございませんでしょうか。

【福岡町民】

今回、このようなタウンミーティングということで、私たちの意見を聞いてくださってありがとうございます。

お願いというのは、私、能美市農業振興協議会に所属しておりまして、その中で少ないですが若手の農業者はいます。今日も1人、仕事しているときに相談に来られたのですが、市長に頑張っている若い農業者を紹介したいですし、その中で声を聞いていただきたいです。能美市の農業のためにも尽力したいと思いますので、こういう農業者の意見を聞くミーティングを開催していただけないかということです。

【井出市長】

ぜひ参加させていただければなと思います。

実は、先日、農業の実態をさらによく自分の中で把握をしておきたいなと思い、小松の市場に行き、市場長といろいろなお話をさせていただきました。そして、大麦やカボチャ、ユズ、丸いも、はとむぎ、大豆、いろんな栽培をしている現場も見に行ってきました。本当に皆さん大変だなという思いであります。

日々、草を刈ったり、水やりをされたり、皆さんのご労苦というのは本当に大変だろうなと思います。

その中で、先ほども申し上げたように、能美市としても何とか新たなる能美市のブランドとなるような野菜を作れないかなという思いもありますので、ぜひ皆さんといろんな意見交換をさせていただきながら、少しでも実現に向かって行ければなと思います。またぜひご案内ください。

⑧ その他

【司会】

これまで掲げたテーマ以外でも、ご意見ご提案持っていらっしゃる方、ご発言をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

【福岡町民】

観音様の写真が飾られていますけど、これは百十有余年（前のもの）です。調べてみますと、ちょうど明治のころ33年には、福岡には67軒ありました。今、360前後だろうと思います。100年ちょっとで、5倍ほどに人口が増加し、世帯数も増えています。これも10年後、20年後を見ると、これから、根上として福島で埋め立て、企業誘致が進んでくるかと思えます。そうすると、やはり住宅が、居住地が必要だろうと思います。その対策があると思えますけど、お聞かせください。

もう一つ、先ほどから言われているように人口が減少傾向にあります。そうすると、外国人の就労する方が増えてくると思います。現在でも福岡に何名か住んでおられますけど、ますます多くなり、いろいろな考え方の方が入ってくると思います。

昨今、テレビを見ていますと、いろいろな事件が起きているので、その対応、対策も考えなければならないと思います。

【井出市長】

まずは、住宅地をどうするかというお話だろうと思います。それは企業誘致が進んできた後にしっかりと考えていかななくてはならない問題ではないかなと思います。まだ工業用地を増設しているわけではないので、そこができて、そして具体的にどういった企業が来るかということがわかれば、どこが一番そういう（住宅地として）適地なのか、それから規模は、どれぐらいが適当なのかということを考えて進めていきたいという思いです。

その一方で、私の持論ですが、実は新しい場所に新興住宅街をつくった場合に、旧集落

の若い人たちがそちらに移り住んでしまって、その旧の集落の空洞化も出てくるのではないかなという懸念もあります。

【福岡町民】

それは心配する必要はないです。福岡の場合はみんな埋まってきます。

【井出市長】

そうですか。

【福岡町民】

反対に安く売れるもので。

【井出市長】

なるほど。私は、例えば近居や同居にあわせて施策を施していければなという思いもあります。

それから、外国人のお話がありました。能美市は、たしか県内で第3位ぐらいに外国人が多いのではないかと思います。今1,000人ぐらいいらっしゃるそうです。

おっしゃるとおり、社員を確保できなくなった場合、外国人が増える可能性があります。その場合、例えば能美市にも国際交流協会という組織がありますので、連携して、能美市に住んでいらっしゃる外国人の方々と我々能美市民が交流を深めることで、地域になじんでほしいなと思っています。

それから、いろんな指摘をいただいているのが、外国人の方が市役所に訪れた場合に、なかなか手続がうまくできないというお話をいただいています。外国人専用の窓口を設けられないかなという思いもあります。また、言葉の障害があると思います。英語ができる職員はいますが、それ以外の言葉への対応について、最近、携帯電話よりも少し大きなものに外国人が話すと自動的に日本語に変換される、そんな装置があるので、それを整備して、外国人の方が市役所に来られてもきちんと対応できる体制も整えていきたいなと思います。

【司会】

間もなく時間が参ろうとしておりますので、ここでタウンミーティングを終了させていただきます。

【井出市長】

いろんなご意見、ご提案をいただきました。自分の中だけでは気づかなかったことです

とか、あ、そうだ、こんな考え方をすれば皆さんにもっと安心・安全に、そして快適に暮らしていただけるのだなという思いもありました。また、移住を考えている人に、こんな情報を提供すればもっと来ていただけるようになるのだなと思うこともありました。

今日、限られた時間でしたが、タウンミーティングは今回で終わるつもりはありません。先ほど申し上げたように市内74町会・町内会を対象に11から12ぐらいのエリアに分けて、9月までに全て終わりたいな思っています。

その後、先ほどご提案があったような、例えば農業、子育て世代、産業振興などテーマ別にタウンミーティングを続けていきたいと思っています。

いずれにしても、現地現場主義、市民ファーストだということを忘れずに、今後も取り組んでいきたいと思っていますので、どうか皆さん、引き続きいろんなご意見、ご提案をいただければと思います。

本当に今日は長時間ありがとうございました。